

いじょうはん

情勢判断学会 東京本部
会員向けニュースレター
発行人 古川 彰久
事務局 〒105-0011 東京都港区
芝公園2-6-11 芝公園ビル 1001
(有)イキイキライフ内
Tel.03-3432-0584
Fax.03-3432-0582
http://www.jouhan.com
E-mail:info@iki2life.com

5 月例会ご案内

日時 : 5月8日 水曜日
18:30 ~ 21:00
テーマ : 「いのちの喜ぶ」生き方
病という負の財産を得て
場所 : 港区立商工会館
参加費 : 1000 円
担当 : かとう みちこ

発病

15 才の頃から心が揺れる、理想と現実とのはずま
で心のバランスを崩してゆく、人生のギアチェンジ
についてゆけなかった、心の病、最先端の摂食障害、
(過食、拒食、自己破壊、ホルモン異常、脳内ホル
モン異常)
20 才の時、体重 22 kg、大量の輸血と大量のステ
ロイドで命はとりとめたが、薬害で苦しむことにな
る。

血清肝炎、腎不全、^{だいたいこつこつとうえし}大腿骨骨頭壊死。

爪、歯、髪を失う、失って失って、やっといのちの
真実を知る。

絶望の中でひとすじの光

結婚、離婚を経て自立を決意、迷いながらも道を求
め、はじめての一人歩き、人生を模索している頃。

城野宏先生との出逢い

病はたったわずかの部分で 90%は健康に気づ
く
健全(普遍性)が全体をしめ、不健全(特殊性)
は部分である
嘆きの人生か、たのしみの人生か 2 者択一、
使うエネルギーは同じ
人頼りの生活から脱却
人生をつくる主因は自分自身の心の中にある、
このことを自覚する
悪い条件があってもそれを生かしてしまおうと
決意すると悪条件はかえって自分を成長させる
好条件となる

「しあわせのかくしあじ」の詩が生まれる
からいお塩は
おいしい おしるこのかくしあじ
からい くるしみ かなしみ
そして わかれ
みいんな しあわせのかくしあじ
ひとふり ふたふり
ほら！
しあわせが とっても
おいしくなったでしょ・・・

本の出版、講演活動はじまる

主体的に行動をおこす

埼玉の脳力開発のタネをまく

15 年間のわたる埼玉情判会の主催
脳力開発との出逢いで人生が変わる

「素粒水」との出逢い(薬害の身体を水で清める)
H15 年、人工透析すれすれだったが、体内水まで
変えることのできる超振動水(世界八ヶ国特許)素
粒水と出遭う。

水は記憶物質である為、今までの浄水器では不完全
である。

今までのものは、ろ過ほうしき、

素粒水は(分解浄除去してしまうテクノロジーをも
つ)水の安全、食の安全、地球の安全に貢献。

健康をとり戻し、地球に恩返し、ビューフルエイジ
ング、ビューフルライフを実践。

すべてが私を育ててくれた。皆様との出遭い。脳力
開発との出遭いのおかげです。

感謝

3月例会報告

日時 : 3月13日 水曜日
18:30 ~ 21:00
テーマ : 「自然治癒力への挑戦」
場所 : 港区立商工会館
担当 : 古川 彰久

1. 野口整体との出会いと親友の死

(1) 野口晴哉師の教え

統合医療の考えを既に実践
治療術から健康法へ
愉気法と活元運動
体癡論と潜在意識教育

(2) 親友の死

白血病を発病、東大病院より、余命3ヶ月。
整体療法にて改善も、徹底できず逝去。
小生、眼鏡をはずす。乱視と近視で視力0.1以下

2. 自然治癒力への挑戦

(1) 自らの身体を実験台に

出来る限り薬や医療に頼らず、自らの自然治癒力を向上させる。

27才当時、乱視と近視で視力が0.1以下でしたが、整体の考えを実践すべく眼鏡を外す。

56才当時0.5程度に回復し、日常生活は眼鏡なしでしたが、運転時には眼鏡使用。

その後、波動の活用で神経系統が活性化し、更に視力が向上し、免許証から眼鏡使用が外れた。

その後、腰痛が発生したが、これは神経系統を刺激し活性化したために、小生の遺伝的体質の問題点が表面化してきたものと受け止め、生活習慣特に食事に高波動食品(特にドイツ製プレミアムサプリメント FitLine)を活用し、改善中。

(2) 我が国医療制度の問題

自然治癒力を認めていない

西洋医療一辺倒で、これまでの東洋医療を認めていない。

医は仁術として、医師を中心とした利権構造を形成し、結果として、検査漬け、薬漬けで成り立つような仕組みを作っている。

“いのち”の精神性を認めず、個人の意識による活性化効果は、いわゆるプラシーボ

効果として排斥している。

食品よりも薬を上位にしている

“いのち”は本来、空気・水・食品

等によって育まれているが、我が国では薬を上位として、薬でないものが食品であるとの位置づけである。

先進国の動向

もともと、ヨーロッパでは英国におけるホメオパシー療法や独国における波動療法等東洋的療法が活用されている。

近年米国においても、成人病対策への西洋医療の限界に気づき、統合医療が国策として推進されている。

(3) 情判会畏友増田寿男氏との再開と波動事業への関り

大学卒業後、鉄鋼会社入社：野口整体に身体の仕組み、城野宏氏に脳力開発と情勢判断学、天風会に心身統一法を学ぶ。

56歳の時、退社し独立：在社中に中小企業診断士、医業経営コンサルタントの資格を取得し、病院経営に関心を持つが、増田寿男氏との縁で、波動に関係する業務につく。

波動についての考察

近代科学の歴史

・物質中心(客観性・再現性・普遍性)：精神・意識の排除

微弱なエネルギー：気について

・国際生命情報科学会(ISLIS)の研究発表“気は、確かに人体間で交流しているが、何がどのように伝わるのかは現在の科学では未解明”

人体センサー：0リング

量子論：天野先生の生気体理論、精神力・生命力の存在

江崎先生の二元性、科学精神の二面性、ロゴスとパトス

古川彰久著書：「知らないうちに強くなる - 無限のパワーを生む 『波動脳力』」

(4) 波動脳力を活性化しよう

脳を中心とした神経系がその生命力を発揮すべく波動を感受し、その情報をもとに自己の生命バランスを保っています。このような潜在的に命を保つために休まずに働いている「感受力」や「自然治癒力」を『波動脳力』と呼びます。

近代科学は身体を物質として機械部品で構成されているかのように扱い、このような潜在的な働きを無視し、外にばかり要因を求めてき

ました。
健全な心身を維持するには、内にある潜在的な動き『波動脳力』に気が付き、この動きを活性化していくことこそが重要なのです。
まずは、内なる『波動脳力』を認め、その素晴らしい力に感謝することです。
情報が氾濫し価値観が多様化してきた時代において、より望ましい「感受力」を育てるためには、特に精神面で、自らの生き方・生き様を確固としたものに確立することです。
私達にとって最も好ましい行動を訓練で繰り返すことにより習慣化し、その機能を潜在意識に取り込み、「直観力」(第六感)としての「反応力」を高め、更に、「自然治癒力」が発揮できるように活性化させるのです。

(5) 生活環境の見直しと波動機器の活用

生活環境の見直し

水、食品等は身体の要求に合わせ、身体に合うものが必要です。
常に変化していく身体には、取り込むことよりも余分なものを捨てることのほうが重要です。余分なものを捨てることにより、身体の本当に必要なものを取り込む機能も活発になるようです。

波動測定器の活用

波動測定器について

- ・測定者がセンサーで、測定者が感受する生命情報を表現する道具：測定者の訓練が不可欠、測定に対する正しい姿勢が大切。
- ・生命情報のコミュニケーションツール：測定者の潜在意識の啓発、被測定者に気付きを与える。

波動転写器について

- ・磁気による情報の伝達および潜在意識の活性化、場の交流による相性の向上。その結果、感受性および自然治癒力の向上。特許の取得。

(6) 体質改善への取り組みと“いのち”のあり方

“いのち”の観察と科学

観測と二元性について

“いのち”の3面と生命活動の観察

感受性と自然治癒力

チャールズ・ダーウィン：「種の起源」

最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるわけでもなく、唯一生き残るのは変化できるものである。

“いのち”の根幹にある自然治癒力

60兆個あると言われている細胞がそれぞれ勤めを果たしている。

そこには相互の連携がある。

その細胞も動的平衡状態にある。(福岡伸一)

遺伝的体質改善の実施

小生の目が悪くなったのは、遺伝的体質によるものであり、

それを良くしてしまったために、その原因となっている身体の仕組みを変えていくこととなる。

その最初の現われが、ギックリ腰であり、骨格とそれを支える筋肉の動きの変化であり、腰から喉に向かって変化してきた。

その後、関節痛が発生してくる。これも徐々に変化していくが、観察していると、いわゆる東洋医学で言う、気・血・水のバランスを関節を通して整えているといえる。

以上

サトルエネルギー学会

国際生命情報研究会 (I S L I S) 等にて活動

